

III 全数把握感染症

III 全数把握感染症

1. 一類感染症

全国、大阪府とも発生はなかった。

2. 二類感染症

結核以外の二類感染症は、全国、大阪府とも発生はなかった。

結核については、下記ホームページを参照されたい。

(財)結核予防会結核研究所 疫学情報センター

<http://jata-ekigaku.jp>

(文責：柿本)

3. 三類感染症

●コレラ

大阪府内では、コレラの発生はなかった。

●細菌性赤痢

8週から10週に4例の届出があり、感染地域はすべて国内と推定あるいは確定され、*Shigella sonnei* が分離された。4例のうち1例は無症状病原体保有者であった。3例の患者の共通症状は下痢であり、2例で発熱、1例で嘔吐が認められた。下痢、発熱を呈した1例では膿粘血便も認められた。

●腸チフス

大阪府内では、腸チフスの発生はなかった。

●パラチフス

大阪府内では、パラチフスの発生はなかった。

●腸管出血性大腸菌感染症

210例の届出があった。年間を通しての発生状況については、11月中旬～12月に保育園でO157による集団感染事例（症例数13）が発生したため、50～51週にかけて届出数が多かった（図1）。なお、本事例以外はすべて散発あるいは家族内発生事例であった。感染者の年齢は20歳代が最も多く、男女間での比較では、男性の方が感染者がやや多かった（図2）。なお、HUS患者の報告は2例であった。

(文責：河合)

図1 腸管出血性大腸菌感染症 週別発生状況 2022年1~52週

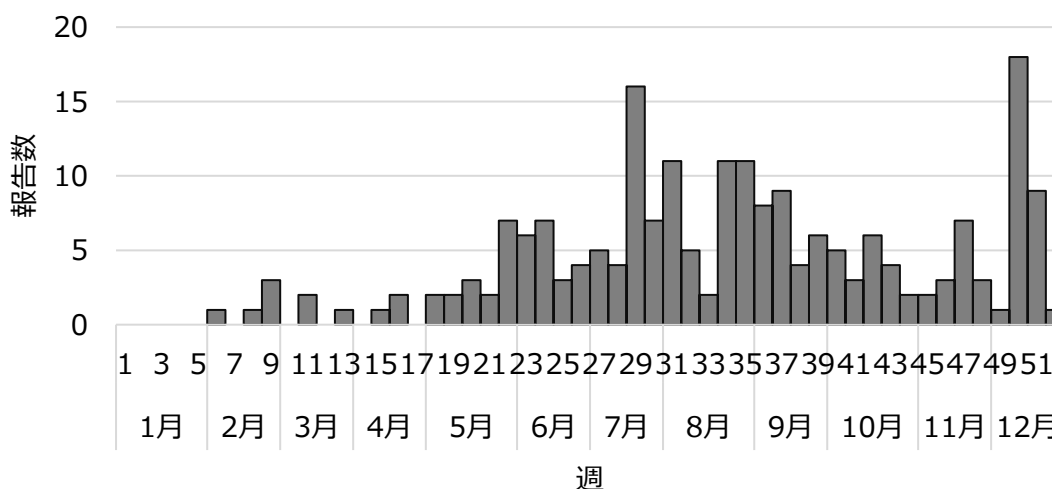
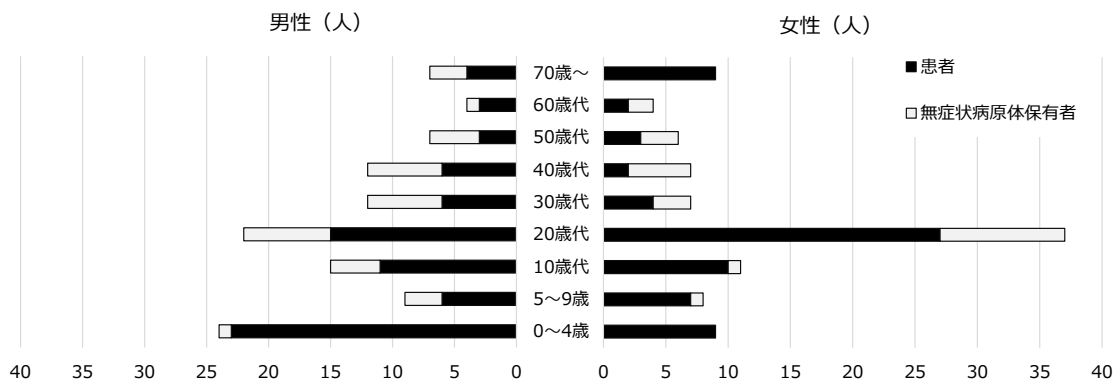


図2 腸管出血性大腸菌感染症 年齢別発生状況 2022年1~52週



4. 四類・五類感染症（全数把握分）

2022年、大阪府における四類・五類感染症の届出数は、30疾患2,561例であった。2021年の20疾患1,651例に比べて10疾患増加し、届出数は910例の増加であった（表1）。

四類感染症の大阪府内届出数は10疾患154例であり、前年に比べて11例減少した（表1）。前年届出がなかったエキノコックス症、重症熱性血小板減少症候群、デング熱について報告があった。前年届出があったレプトスピラ症について2022年は報告がなかった。その他、前年から増加した疾患は、A型肝炎、オウム病の2疾患であり、減少した疾患は、E型肝炎、マラリア、およびレジオネラ症の3疾患であった。A型肝炎は、6例の届出があり、

前年の3例に比べて、3例の増加であった。マラリア、デング熱は、それぞれ3例、および14例の届出がありいずれも渡航歴の記載があった。重症熱性血小板減少症候群の感染地域は不明であった。

表1 四類・五類全数把握感染症届出数

種別	疾患名	届出数		大阪府内計		全国計	
		2022年	2021年	2022年	2021年	2022年	2021年
四類	E型肝炎	7	12	434	458		
	A型肝炎	6	3	69	71		
	エキノコックス症	1		28	24		
	オウム病	2	1	12	9		
	回帰熱			25	10		
	Q熱				1		
	コクシジオイデス症			2			
	サル痘			7			
	重症熱性血小板減少症候群	1		118	110		
	チクングニア熱			6			
	つつが虫病	2	2	493	545		
	デング熱	14		99	8		
	日本紅斑熱	8	8	460	487		
	日本脳炎			5	3		
	ブルセラ症			1	1		
	ポツリヌス症			1	5		
	マラリア	3	6	31	30		
	ライム病			14	23		
	類鼻疽			2			
	レジオネラ症	110	131	2,144	2,131		
レプトスピラ症		2	38	34			
四類合計		154	165	3,989	3,950		
五類	アメーバ赤痢	46	48	536	537		
	ウイルス性肝炎	14	16	208	204		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	159	185	2,010	2,065		
	急性弛緩性麻痺	1	3	41	25		
	急性脳炎	16	9	398	338		
	クリプトスポリジウム症			7	5		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	17	15	171	181		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	40	42	744	646		
	後天性免疫不全症候群	93	104	892	1,054		
	ジアルジア症	1	2	32	36		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	15	18	210	194		
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1		8	1		
	侵襲性肺炎球菌感染症	108	92	1,345	1,405		
	水痘（入院例）	16	14	328	301		
	先天性風しん症候群				1		
	梅毒	1,823	864	13,226	7,978		
	播種性クリプトコックス症	5	9	158	161		
	破傷風	3		96	93		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	18	25	132	124		
	百日咳	29	39	500	752		
	風しん	1	1	15	12		
	麻しん			6	6		
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1		13	6		
五類合計		2,407	1,486	21,076	16,125		
四類五類合計		2,561	1,651	25,065	20,075		

五類感染症の届出数は20疾患2,407例であった。前年の届出数に比べて921例の増加であった。増加した疾患のうち、梅毒は、1,823例の届出があり、前年の864例に比べて959例の増加となった。侵襲性髄膜炎菌感染症は、前年は届出がなかったが、2022年は1例の届出があった。急性脳炎は、16例の届出があり、前年の9例に比べて7例の増加であった。

減少した疾患のうち、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、159例の届出があり、前年の185例に比べて26例の減少であった。後天性免疫不全症候群は、93例の届出があり、前年の104例に比べて11例の減少となった。バンコマイシン耐性腸球菌感染症は18例の届出があり、前年の25例に比べて7例の減少となった。麻しんについては、別項で後述する。

全国の2022年における四類・五類感染症の届出数を見ると、25,065例で前年の20,075例と比べて4,990例の増加となっている。主に、四類感染症で増加した疾患は、回歸熱が10例から25例に、デング熱が8例から99例に、サル痘が0例から7例に、チクングニア熱が0例から6例に、類鼻祖が0例から2例に増加した。五類感染症では、急性弛緩性麻痺が24例から41例に、急性脳炎が338例から398例に、劇症型溶血性レンサ球菌感染症が646例から744例に、侵襲性髄膜炎菌感染症が1例から8例に、梅毒が7,978例から13,226例に、バンコマイシン耐性腸球菌感染症が124例から132例に、薬剤耐性アシネトバクター感染症が6例から13例にそれぞれ増加している。

一方、減少した主な疾患について見ると、四類感染症では、つつが虫病が545例から493例に、日本紅斑熱が487例から460例に、ライム病が23例から14例にそれぞれ減少していた。五類感染症では、後天性免疫不全症候群1,054例から892例に、侵襲性肺炎球菌感染症が1,405例から1,345例に、百日咳は752例から500例にそれぞれ減少している。

(文責：柿本)

●麻しん

2022年、大阪府において、麻しんの届出はなかった。全国における2022年の届出は6例であった。

(文責：柿本)

5. 新型インフルエンザ等感染症

●新型コロナウイルス感染症

2022年における新型コロナウイルス感染症の報告数は、2,347,380例であった。

(文責：本村)

なお、府ホームページ (https://www.pref.osaka.lg.jp/iryo/2019ncov/cov_kensyou_01.html) に「保健・医療分野における新型コロナウイルス感染症への対応についての検証報告」を公開している。